

筆石まちづくり計画

筆石で暮らすことがうれしいまちづくり

令和4年2月

丹後町筆石区

内容

はじめに	1
1.筆石の歴史と概要	2
2.筆石の現状及び課題	2
3.地域づくり推進計画（明日から将来に向けて）	5
4.実施計画（前期5年間の主な事業）	7

はじめに

新型コロナウイルス感染症対策のための緊急事態宣言 1 回目が出たのが令和 2 年 4 月。それから 5 回緊急事態宣言が出されました。この間、外出の自粛をもとめられ、体育館を含む公共施設の使用ができなくなり、イベントなどの開催が制限され、飲食店には営業時間の短縮が指示されるなど国民の行動が大きく制限されました。筆石区においても寄合や行事が開催できなくなり、地域の方々話し合い、ふれあう機会がなくなりました。このような状況を体験したことで、これまで以上に地域のつながりの大切さを知ることとなりました。

平成 16 年の京丹後市合併に伴い、市域の広域化や職員数の削減により、旧町のときのようにきめ細やかな目配りができにくくなり、自分たちの地域をどのようにしていくのか、どのようにしていきたいのか自立的、主体的なまちづくりを求められるようになりました。

そこで、筆石まちづくり計画は少子高齢化が進行し縮小する筆石区において、これからのコミュニティ活動はいかにあるべきかを探るため、区民アンケートを実施し、中堅と言われる世代の区役員で将来の姿を描き、議論の中で策定を進めました。

計画の中には、今すぐできることから遠い将来の可能性を追求することまでありますが、目的は、「筆石で暮らすことがうれしいまちづくり」です。

次世代へ引き継ぐことができるように、このまちを維持していくためにどうしていくのか、思いを込めてまとめてみました。

令和 4 年 2 月

筆石まちづくり委員会

1.筆石の歴史と概要

(1) 歴史

筆石と書いて「ふでいし」ではなく「ふでし」と読みます。筆石は、『順国誌』に「鐸石別尊（ふでしわけのみこと）竹野郡鐸石の里より始めて貢を入る故此の郷を名とす」とあり、筆石集落のおこりとみるべきと思われます。その昔「ステシ」あるいは「ヌデシ」の呼名が記紀に見えます。（引用丹後町史）

この鐸石別尊（ふでしわけのみこと）は、丹後など山陰道を平定した四道将軍の一人丹波道主命（たにわのみちぬしのみこと）の孫、第 11 代垂仁天皇（すいにんてんのう）の皇子で、この地を支配したことから、その名前にちなんで「ぬでし」（「ふでし」としたのではないかとされています。ただし、なぜ「筆石」の字を充てたかは定かではありません。海岸段丘の田畑の中に、その鐸石別命の墓とされる柁塚古墳（市指定史跡）が残っています。

(2) 概要

筆石区は、旧丹後町・竹野地区にあり、急傾斜地を背景に海を臨む高台に集落が点在しています。特に、変化に富んだ海岸線の景色は素晴らしく、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの中にあつて、海岸段丘から見下ろす海岸には奇岩「屏風岩」を有するジオサイトが広がっています。海岸段丘の様子は、戦前・戦後に活躍された洋画家の須田国太郎の昭和 13 年の作品「筆石村」でも描かれているほか、昭和 51 年発行の丹後町史でも「筆石段丘と屏風岩」として紹介されています。

海岸段丘上の限られた面積の田畑で農業を主に営み、ワカメを刈り海苔をつむ程度の漁業を営む家が多く、その後現金収入を得るために織物業に従事したが、ここ近年は会社勤めをする家が多くなっています。

集落より海側の耕地を集積し、大型の耕作機械を利用するため土地改良事業を実施しました。

圃場整備事業 平成 3 年度から同 5 年度 圃場面積 5.7ha

この土地改良事業によって、集落より海側では耕作放棄地も見られず、農地はすべて区民が耕作し、農地を守るという意味で極めて大きな成果が認められます。

一方、集落より山側の耕地は、数件の農家が耕作している以外、ほとんどの畑、山林は荒廃が進み、猿、鹿をはじめとする有害鳥獣が里に近づき、集落内まで出没しています。

2.筆石の現状及び課題

(1) 人口推移

国勢調査人口の推移

調査年	区分	世帯数	男	女	計
平成 7 年		31	54	56	110
12		34	43	57	100
17		35	44	52	96
22		37	42	56	98

27	34	41	52	93
----	----	----	----	----

令和2年の国勢調査数値は未発表のため、平成7年と平成27年を比較（20年間の比較）したところ、筆石区では世帯数は増加していますが合計人数は17人減少（△16%）しています。

平成27（2015）年国勢調査による年齢構成

分類	人数	比率
15歳未満	17	18%
15歳～29歳	6	6%
30歳～64歳	33	36%
65歳以上	37	40%
合計	93	100%

年々高齢者世帯が増加してきており、住民の年齢構成をみても40パーセントのかたが65歳以上です。将来推計人口で見た令和47（2065）年の日本では、約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上と推計されています。高齢化率でみると、65歳以上人口は、令和47年で38.4%になり、75歳以上人口は、令和47年で25.5%を占めると推計されます。筆石区の、平成27（2015）年国勢調査による年齢構成を見ると、65歳以上は、40%を占めているので、当区は日本全体が到達する社会を50年先取していることとなります。

また当地区でも空き家が目立つようになり、人口減少に伴って既存の田畑の維持管理や地域活動の存続そのものが危ぶまれるようになってきています。今後、5年先、10年先を見通した地区の在り様について、具体的な方策を検討する必要があります。

（2）仕事

かつては自宅又は、自宅に併設した工場で、機織をしていた人が廃業し集落内で働くということが少なくなりました。アンケートの集約からも、会社員など働きに出ている人は31.9%となっています。

農業・漁業の従事者は21.7%、専業主婦（夫）、無職が23.1%であるので、44.8%のひとは集落内にて、体力に応じた労働を行っていると思われます。今後も生き生きと体を動かす体力に応じた労働の場が求められます。

（3）交通機関

これまで、路線バスは乗原経由で、運航されましたが、経路が変更になり国道178号線を通ることとなりました。これまでも、土砂災害や積雪のために国道を走ることはありましたが一時的なものでした。この急な路線変更で国道に設置されたバス停はバス待合所がない状態で運行がはじまりました。このため特に積雪時や暴風雨の時などにバスを待つのに困難な状況が見られます。今後ますます超高齢化が進み、今は自家用車で移動している住民も、やがては、買い物、通院するために公共交通機関を利用することになるので、この問題の解消は現実的な課題となっています。

(4) 商業

旧丹後町・竹野地区にあった食品スーパーがなくなり、日常生活に必要なものは、一番近くても4キロ離れた間人地区にある食品スーパーへ買いに行かねばならなくなりました。都市部では近くにあり便利なコンビニも10キロ離れており、京丹後市弥栄町まで行かなければありません。その他、集落へ週に1回食料品の移動販売車が巡回してもらえます。

自家用車で移動できるあいだは何とかなるが、移動手段がなくなった場合、買い物難民層の増加が懸念されます。アンケートの不安に感じていることや困っていることの質問でも、「コンビニ・商店がなく、日常の買い物が不便なこと」と20名が回答しており多くの区民が不安や困っている項目にあげています。

(5) 防災

筆石区は、海岸段丘に沿って住宅が建っていて、集落全体が土砂災害警戒区域等に指定されている危険な区域となります。特に集落より海側の農地や、農業用水路では台風時などの降雨によりたびたび土砂災害が発生しています。また、ため池もあり、管理が不十分な箇所もあり、万一の場合、住宅はもちろん農地に影響があり、日ごろからの対策が必要です。さらに、集落内の道路が狭いため積雪時にはたびたび交通渋滞を起こしています。福祉避難所になっている丹後市民局までは2.3キロ離れていることや福祉避難所までの国道が氾濫想定区域にあるなど、高齢者や、要援護者などの避難対策が課題となっています。

筆石区の土砂災害警戒区域指定状況（7箇所指定）

	区域の名称	自然現象の種類	指定年月日	指定区域の種類
1	筆石1（ろ015）	土石流	平成24年3月21日	警戒区域／ 特別警戒区域
2	筆石2（ろ015-2）	土石流	平成24年3月21日	警戒区域
3	筆石3（ろ016）	土石流	平成24年3月21日	警戒区域／ 特別警戒区域
4	筆石A（ろ1035-6）	急傾斜地の崩壊	平成24年3月21日	警戒区域／ 特別警戒区域
5	筆石B（ろ1035-5）	急傾斜地の崩壊	平成24年3月21日	警戒区域／ 特別警戒区域
6	筆石C（ろ1035-4）	急傾斜地の崩壊	平成24年3月21日	警戒区域／ 特別警戒区域
7	筆石（63）	地すべり	平成27年9月11日	警戒区域

(6) 担い手づくり

当計画でも高齢者の区分に関して 65 歳以上を高齢者としてきましたが、実際のところ 65 歳以上でも心身の健康が保たれて、活発な社会活動が可能な人が多数を占めており、また従来の 65 歳以上を高齢者とすることに否定的な意見もあることから、65 歳以上を一律に高齢者と見る一般的な傾向は、現状に照らせばもはや現実的なものではないように思われます。担い手を年齢区分で仕分けするのは、現状に合わないと思われます。

また、アンケートでは 57.4%の方が区の運営に、女性・若者の声を反映するべきと答えています。

区の会合は、家族の者が 1 人参加すればよいが、男性が一手に引き受け参加している傾向があり、女性や若者が分担し合って参加することも必要と思われます。女性や若者が地域活性化の担い手になり、地域全体で積極的に参加する体制づくりが必要です。

(7) コミュニティ活動

筆石区の定期的な年間行事は、農業用水路の泥上げ作業が 1 回、農道の草刈り作業が 2 回、集落自治会の会合が 3 回、祭りや宗教的行事が 5 回あり、出席は義務です。飲食を伴い区民が歓談する行事を楽しんでいるか、わずらわしいと感じるかはひとそれぞれあると思われます。ただ飲食を伴う行事は、ここ 2 年間、新型コロナウイルス感染症対策のため行っていないので、アンケートの中でも、今までの頻度で顔を合せて話したいという意見もありました。

アンケートでも、「子ども時代に体験した祭りや運動会が思い出として残っている」、「高齢化や子どもが少なくなっても、世代間の交流行事を守ってきた」と、地域の行事を評価している回答がありました。子どもたちの健やかな成長をはぐくむため、地域の中でつながりを深める交流の場を持つことは大切なことではないでしょうか。

筆石区年間行事

月	行事
4 月	農業用水路の泥上げ作業、年度初総会
6 月	農道草刈り作業
7 月	此下浜のビーチクリーン活動（任意）
8 月	農道草刈り作業、お盆の夏祭り、防災訓練
10 月	秋祭り、地区運動会（公民館活動）
11 月	お日待ち講
12 月	敬老会
1 月	新年互例会、総お講
3 月	春まつり、年度末総会

3. 地域づくり推進計画（明日から将来に向けて）

1. 住みやすい環境づくり

道路交通網の整備

交通安全施設の整備（カーブミラー、ガードレール）

市道の舗装改良・側溝整備

集落内狭あい道路の改良

生活環境の整備

合併浄化槽の普及

集落内下排水路の水質汚濁防止対策

空き家対策

交通の妨げになる自家用車の青空駐車対策

美しい集落づくり

きれい運動の推進（浜掃除・空き缶回収）

花いっぱい運動の推進

2. 地域の特色を生かした集落づくり

農地・山林等自然環境を生かした集落づくり

多面的機能支払交付金を活用した事業の推進

漁業を応援する取組

昔ながらの漁業を継続していく取組

のりつみ場等共同利用施設の整備を検討

縮小化する農業の現状維持

耕作放棄地の防止と農業後継者の育成

圃場の団地化を推進

直売所・共同利用施設の検討・整備

定住受け入れ活動の推進

区民との交流や空き家紹介活動の推進

短期移住者の受入活動の推進

3. 健康と福祉の集落づくり

保健・医療の充実

京丹後市の健康推進事業と連携した健康増進活動

子育て環境の充実

福祉活動の充実

生涯現役運動の推進

新しい高齢者組織の検討と加入率向上対策

災害避難時の弱者対策の充実

4. 文化を生かした地域づくり

伝統文化の活用

秋まつりの継続

三柱神社・八柱神社社殿の保全改修

お日待ち・春まつりの継続

史跡・歴史遺産の活用

枳塚古墳の美化管理

三柱神社・八柱神社社殿の美化管理

神社参道の清掃管理

コミュニティ施設の整備

集会所（公会堂）の維持管理・整備

倉庫（旧電話番室）の修繕・整備

墓地その他区有施設の管理・整備

4.実施計画（前期 5 年間の主な事業）

子や孫の世代が、「筆石で暮らすことがうれしい」、「地元をほこりに思っている」と言える筆石にするために小さな一歩からはじめよう。

- 集会所改修工事（3,500 千円）
- 集会所事務機器整備（500 千円）
- 区内道路改良工事（1,000 千円）
- 交通安全設備設置工事（500 千円）
- 農道舗装工事（3,000 千円）
- バス待合所新築工事（2,000 千円）
- 運動遊具の検討整備事業（500 千円）